

2023年度

社会貢献事業報告書

一般社団法人リトルグリーン

一般社団法人リトルグリーンの社会貢献事業が目指すもの

日本における生活の基本的な要件である衣食住の“食”を支える活動を通じて、これから訪れる日本の混沌とした時期においても変わらぬ活動を行い続けることにより、人々が次の時代へと移っていくその支えとなること。

私達の思い

日本人は金持ちも貧しい者もつましく暮らし、質素な食事をし、暴飲暴食をするようなことはない。ぜいたくさとは無縁の心地よい暮らしを求め、それがミカド(天皇)から一般市民にまで徹底しているのである。

『ナショナルジオグラフィックが見た日本の100年』(出版;日経ナショナルジオグラフィック社)という本の20ページに記述されている文章です。時代は1900年(明治33年)頃、米国人が見た日本の様子を記録した本ですが、この文章が正に当法人が考えます、立ち返るべき日本の様子を表しているように思います。今から124年前、帝国主義的な流れもこの頃には始まっていたようですが、異国の人から見ると何て幸せそうに人々が生活しているのだと、とても驚かれたらしいです。何も今の文明を壊して昔に戻りましょうという訳ではありませんが、全体のバランスをもう少し考えるべきなのではなかろうかということも表現しているのが当法人の行っている社会貢献事業になります。混沌とした時期が過ぎればそのような世の中になってくるのが問題になると思います。

そもそも農産物は1000年前から、いやもっと前から現在に至るまで、基本的には天候の影響を受けて、思うように収穫できないという状況もありえます。そのような経験は滅多にないのかもしれませんが、実際に去年は新潟で8月頃に雨が降らず水が不足し米が実らなかった地域もありました。そのことを我が事として考えてみると、収穫できたということは大袈裟に表現すると運が良かったことといえます。土を耕すなど苦労はあったかもしれませんが、基本的に自然の力の恩恵が無ければ収穫できない農産物は、収穫した人が所有しているものなのかと疑問にさえ感じてしまいます。収穫させて頂くことを皆で喜んだのが、世界中にある収穫祭やお祭りなのではないかと思えます。今では金融資本主義の社会なのでまずは

自分も生きていく分としてお金を稼がなければいけない為、抱え込んでいる、または手放せないなどの行動が124年前とは明らかに違う現実に行っているのだと思います。

当法人もその現実からは逃れられず抱え込んでいますが、それでもより良い日本を創りたいと考えお米を寄付させていただき活動を行っております。昨年、とある病院の院長先生に営業活動でお邪魔させていただいた際、「そういった社会貢献事業は、儲かってからやるものじゃないか？」と若干否定的なことを言われました。確かに世間一般ではそうなのかもしれませんが、農業分野で儲けるとなると、農薬を沢山使用し大量に生産して販売し、自然環境にも良くなさそうだとバランスがさらに崩れてしまっていて、何か本末転倒のような結果になるイメージがありましたので、それなら最初からやっつけてしまえという、ちょっと変わったことを行っているのが当法人です。

世間的に変ったことをやっているのは、やはりお米を購入してくださるお客様がいらっしゃるからでして、本当に感謝の念でいっぱいです。決して安くはないのにもかかわらずご購入していただき本当にありがとうございます。寄付させていただいた先様からお礼の手紙などが当法人に届いております。この手紙は公表してはいけないと言われておりましたが、お見せすることは出来ないのですが、このことだけはお客様にお知らせさせていただきたいと思っています。

当法人のこれから

より良い日本、社会を創るための社会貢献事業ですが、出来ることにも限りがあり現在は食の問題と“子ども達の為に”とを掛け合わせた視点にフォーカスして取り組んでおります。後から振り返ったときに、修正が必要となれば検討しますが、この取り組みが有益だったとなるように尽力していく所存でございます。そのことは2025年、夏頃からわかってくるのだと思っています。

末筆ではございますが、ご支援・ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。今後とも当法人の社会貢献事業へのご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人リトルグリーン
代表理事 須藤 悟
2024年 2月記す